

これまでの要約・整理（座長とりまとめ）

- アンケート結果について（町民の求めるもの）
 - ・ 地域の歴史や文化と密着した教育
 - ・ 自然を活用した教育
 - ・ 町民と関わり、故郷への愛着をはぐくむ教育

- 森のようちえん化に向けて（内田委員）
 - ・ 安芸太田町の園でも十分実施可能
 - ・ 必ずしも「森」にこだわる必要はない
 - ・ 最初から「フルスペック」である必要もない。

「森のようちえんといってもこれまでの幼児教育において求めている子どもの成長発達について目指しているところは同じであり、その方法として野外活動や体験活動の有効性を積極的に取り入れているものなのです」

- ・ 必要以上に関わらない
- ・ 指示語での子どもへの言葉かけはあまり行われたい
 - ⇒子どもは自ら学ぶ力を持っている⇨子どもの主体性を重視？
 - ⇒自然は最高の教材
 - ⇒遊びを重視
- ・ 指摘事項：ご家族の理解をどう得ていくのか？ ⇒地域住民の理解？
：教員の負担軽減（家庭の協力）

- 体験学習が教育を変える（堀委員）
 - ・ 学習が一番楽しいといえる学校を
 - ・ 子供が決める、子どもが選ぶ
 - ・ プロジェクト（体験学習）中心の学校
 - ⇒子どもの主体性重視が学習意欲を高める⇒より深い学びを実現？
 - ⇒学習をデザインする発想？
 - ⇒体験の重要性（知識の詰め込みの否定、より深い学びを実現する方法か？自然は最高の教材？

⇒プロジェクト中心の授業は、課題に直面した時の対処の仕方そのものを
教えている？

・指摘事項：フルスペックは難しいのでは？

⇒先生にもっと自由と余裕を

● 地域とともに高め合う教育の推進（菅野委員）

・高校の魅力化について「プロジェクト学習」の提案

・「ふるさと科」の創設による、地域とともに高め合う教育の提案

⇒地域との関わりが生徒を育て、その関わりが逆に住民に刺激を与え、
まちづくりにつながる好循環が生まれる

⇒学習をデザイン（生徒の主体性を重んじる取り組み）

・大綱改定にあたって、「熟議」導入の提案

⇒地域住民を巻き込む手段

⇒地域住民の(保護者の)理解を得る取り組み

● 学び続けるまちづくりを目指して（白水委員）

・子どもは自ら学ぶ力をもっていて、その力を引き出す環境が大事

・協調学習によって「自分の考えにこだわりを持ち、根拠に立ち返りながら
粘り強く考える姿」、「誰の考えも否定せず、やり取りを通して考え続け
る姿」が身についている。

⇒学ぶ力を持つ子供とそれを引き出す先生（大人）の役割。

⇒学習をデザインする（対話を通じて生徒の主体性を重視？）

・先生も学び続けることの重要性

⇒学習をデザインし続けるためには努力が必要

⇒先生にもっと自由と余裕を

・学校を核とした学び合いでまちづくりを

⇒地域住民とのかかわりあいがあるが故郷への愛着を生むのではないか？

論点整理

● 大綱たたき台のイメージ

- 教育に特化したい(文化振興等は今後、例えば「生涯学習大綱」等を検討)
- 簡潔にすること。
- 網羅的にしないこと(重点を明示(当然実施すべき事(学習指導要領の中身等)はいちいち書かない))
- 盛り込みたい事：
 - ・どんな子どもを育てたいか
 - ・そのために必要な取り組み(として教育委員会にお願いすること)

● どんない子どもを育てたいか？(本町教育の目標)

森のようちえんによってどんな子が育つのか？

体験学習でどんな子どもが育つのか？

マイプロジェクトでどんな子どもが育つのか？

協調学習でどんな子どもが育つのか？

(キーワード：主体的…)

● そのために必要な取り組みは何か(安芸太田町ならでは)

(キーワード：体験、自然、地域住民…)

● 町民を巻き込むために必要なことは

● 不登校の問題について

● 先生のなり手が減っている現状について